

68歳高校生 成長の日々

古知野高 定時制・岩田さん



文部科学大臣賞を受賞し、満面の笑みを浮かべる岩田さん

生活体験発表大会は昨年11月24日、東京で行われ、各都道府県の代表58人が参加した。岩田さんは昨年7月から準備を始め、9月からは毎日教室や職員室で練習し、生徒らがいなくなるのを待って、午後10時頃から体育館で本番を想定して

市役所を訪れ、受賞を報告した。

(沢村宣樹)

岩田さんは小学校6年の時、父親を病氣で亡くした。母親と2人暮らし始めたため、就職しか選択肢はなかった。中学を卒業後、地元企業に入り、仕事一筋で50年間、勤め上げた。しかし、最後の学歴が「中学卒業」という

リハーサルを重ねた。

岩田さんは小学校6年の時、父親を病氣で亡くした。母親と2人暮らし始めたため、就職しか選択肢はなかった。中学を卒業後、地元企業に入り、仕事一筋で50年間、勤め上げた。しかし、最後の学歴が「中学卒業」という

岩田さんは忘れては覚えては覚えの繰り返しだった」と振り返る。

では書く度に腕前が上達す

ることが目に見えて分か

り、成長できる日々に心を

躍らせた。さらに、孫ぐら

いの年齢のクラスメートと

も一緒に給食を食べたり、

世間話をしたりして、「青

春時代を味わえた」と笑う。

同校は毎年1人、県大会

に生徒を送り出しており、

生活体験発表で大臣賞

定時制・通信制で学ぶ生徒が学校生活での体験を発表する「全国高校定時制通信制生徒生活体験発表大会」で、県立古知野高（江南市）の定時制普通科4年・岩田幹男さん（68）が、文部科学大臣賞に輝いた。簡単な漢字や計算にも四苦八苦しながらも、成長する喜びや学ぶ楽しさを感じる学校生活をまとめた。8日、江南市役所を訪れ、受賞を報告した。

岩田さんは小学校6年の時、父親を病氣で亡くした。母親と2人暮らし始めたため、就職しか選択肢はなかった。中学を卒業後、地元企業に入り、仕事一筋で50年間、勤め上げた。しかし、最後の学歴が「中学卒業」という

岩田さんは忘れては覚えては覚えの繰り返しだった」と振り返る。

では書く度に腕前が上達す

ることが目に見えて分か

り、成長できる日々に心を

躍らせた。さらに、孫ぐら

いの年齢のクラスメートと

も一緒に給食を食べたり、

世間話をしたりして、「青

春時代を味わえた」と笑う。

同校は毎年1人、県大会

に生徒を送り出しており、

4年生の中で最高齢で模範生の岩田さんに白羽の矢が立った。全国大会への切符をかけた県大会では、緊張してうまくセリフが出ず、2位に。全国では優勝した

いと、スピーチする時に強

弱をつけたり、感情を込め

前経験に傷をつけてしま

つたね。ごめんね」と言わ

れたことも心残りだった。

岩田さんは「朝から晩

まで練習したかいがあつ

た。大きな賞は初めての経験なので本当にうれしい

と表情をほころばせた。

岩田さんは、高校4年間、

農業を続けていることもあ

り、今後は農業学校に挑

戦したい」と新たな夢に目

を輝かせていた。